

データで見る JICA インターンシップ・プログラム

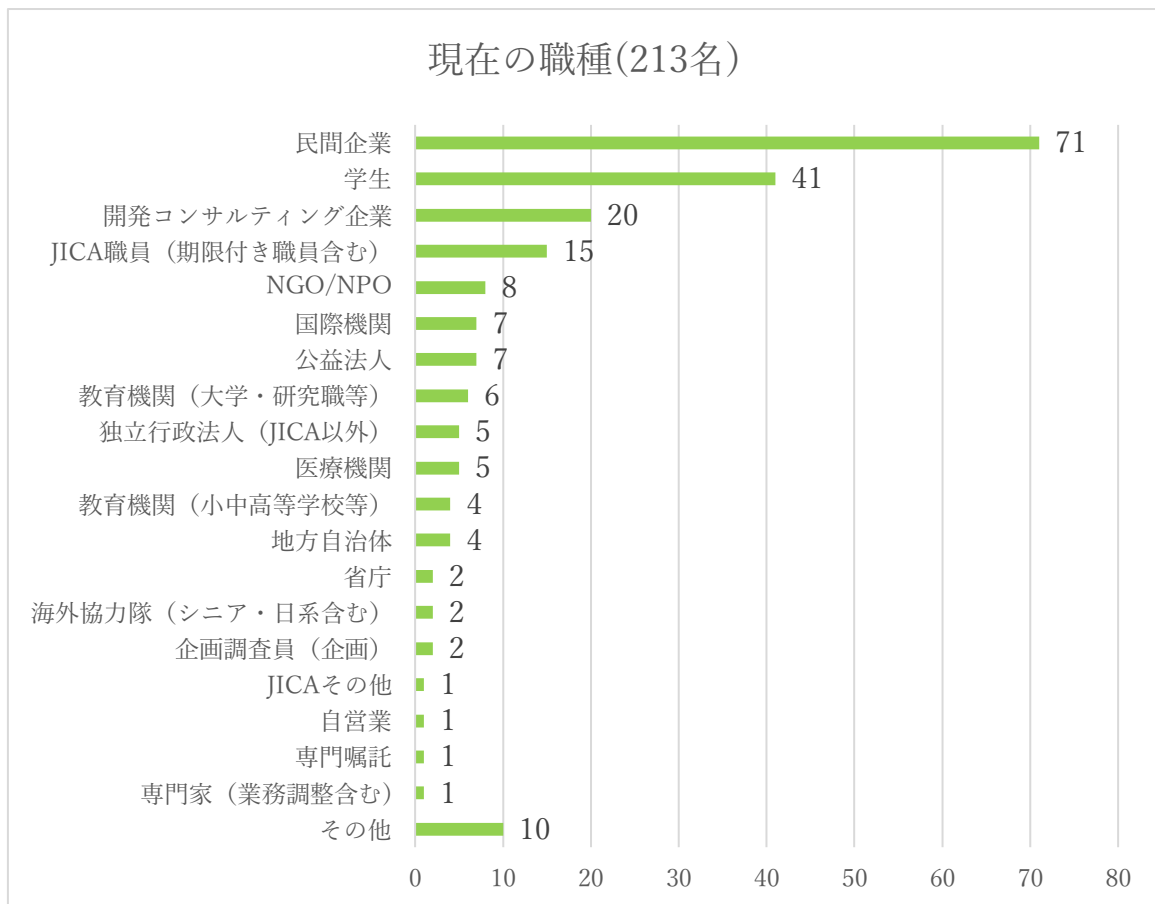
JICA 人事部開発協力人材室

2009 年～2018 年インターンシップ参加者 213 名の声を聞いてみました。

JICA インターンシップ・プログラム 3 つの特徴

- ◆参加者の 40%の人がインターンシップ後に国際協力関連業務に従事
- ◆国際協力を携わる修了生の 98%が、所属先の決定に役に立ったと回答
- ◆国際協力分野に対する理解、キャリアに対する理解が深まるという声が多数

1. 現在の職種について (学生内定者も含む)

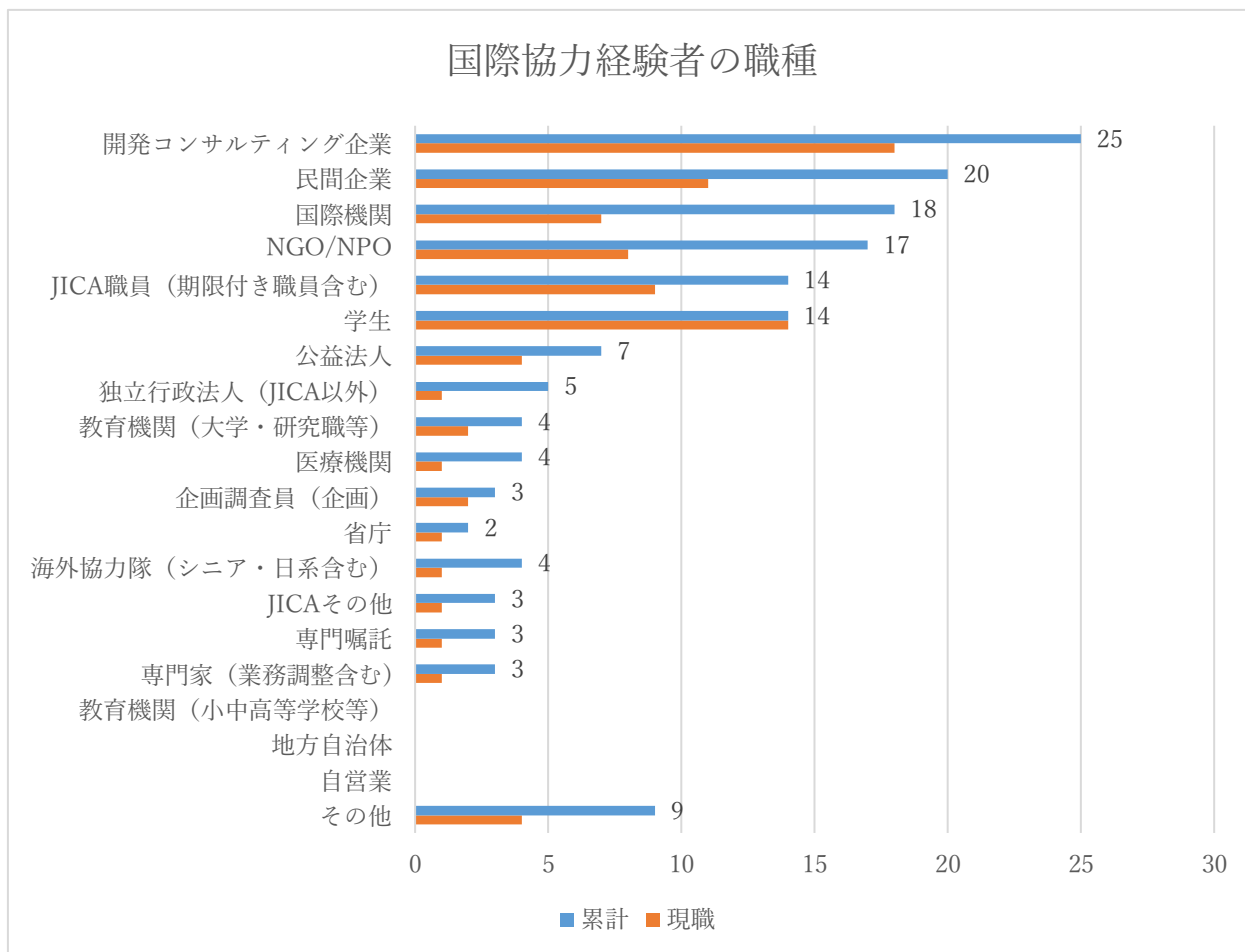


2. 現在までの国際協力関連業務の経験の有無

参加者の40%がインターンシップ後に国際協力関連業務に従事(213人中86人)

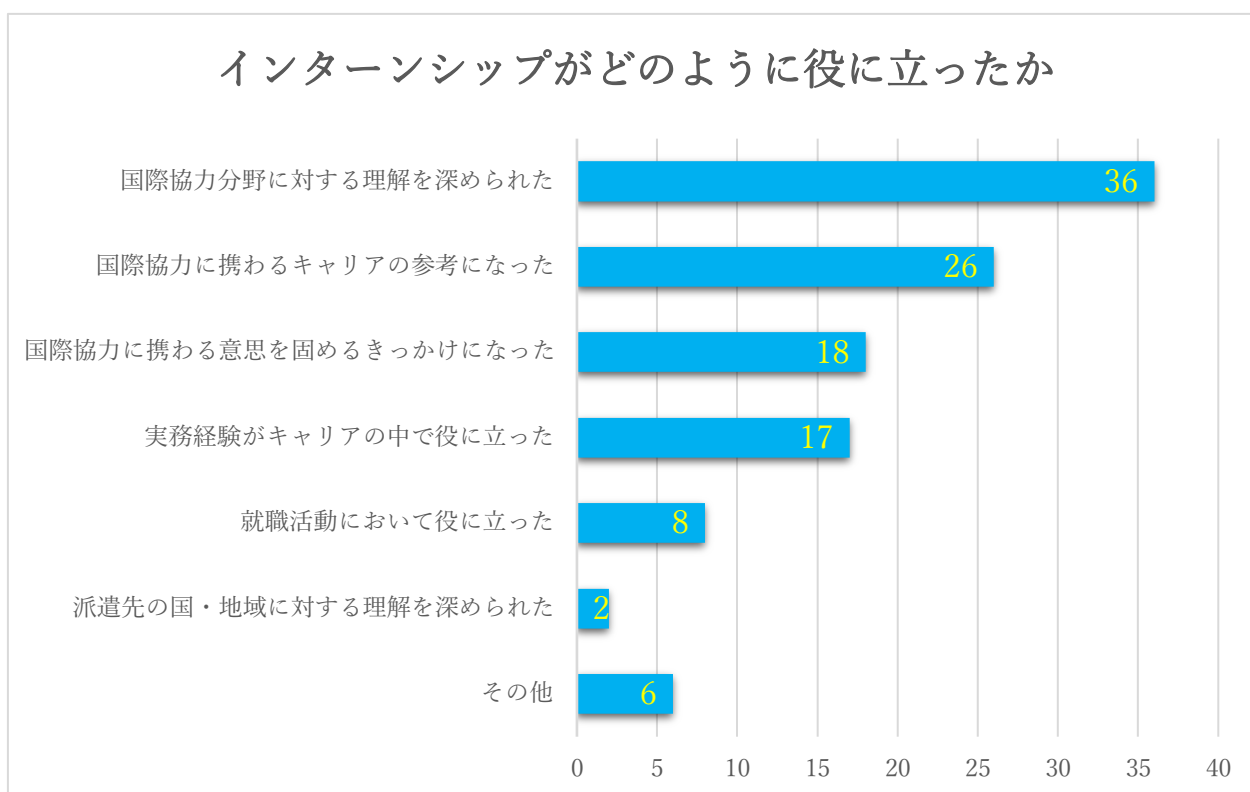
また、経験のない人のうち95%が将来的に関わりたいと回答(127人中120人)

【国際協力関連業務の経験がある方の現在、過去の職種情報】



3. インターンシップの経験がどのように役に立ったのか

- ・ 98%の人が所属先決定の役に立ったと回答(86人中84人)
- ・ 国際協力に対する理解、今後のキャリア像を掴めたという意見が多数
- ・ インターンの経験が就職活動における説得力の厚みにという声も



4. 参加者の声（配属先）

- ・ 国際協力の業界について、インターンシップで出会った様々な方からお話を聞く中で理解が深まり、自分がどういった立場でこの業界に関わりたいかというイメージが明確になった。また、履歴書や面接の中でインターンシップの経験を海外経験としてアピールすることが出来た。（ガーナ事務所）
- ・ JICA の案件がどういった流れで動いているかの業務理解に繋がった。JICA 職員のみならず専門員に直接質問する機会が多数あったため、自分が抱えていた疑問や問題意識などを深掘りする機会になった。（産業開発・公共政策部 資源・エネルギーグループ）
- ・ インターンシップ経験で国際協カスキームについて学んでいたため、現職での業務従事にあたり、提案書の作成や関係機関との連絡調整がスムーズに実施できた。（株）TEC インターナショナル（ミャンマー）

以上